

瀬戸内海におけるオオミズナギドリ *Calonectris leucomelas* の繁殖の初確認 と標識調査

飯田知彦 1・山本 貴仁 2

- 1 広島県教育委員会 〒730-8514 広島県広島市中区基町 9-24
- 2 石鎚ふれあいの里 〒793-0214 愛媛県西条市中奥 1-25-1

オオミズナギドリ *Calonectris leucomelas* は 2～3 月に日本に渡来し、北海道から九州までの日本の周辺の島嶼で繁殖する（日本鳥学会 2000）。日本では最も普通に見られるミズナギドリ類である（真木・大西 2000）。オオミズナギドリの繁殖地となっている島の 84 %は日本国内にあることから、繁殖地の大半が日本であるといえる（岡 2004）。そしてこれまでに確認された繁殖地はすべて外洋であったが、筆者らは、2009 年に瀬戸内海の島でオオミズナギドリの集団繁殖地（コロニー）と繁殖を確認した。本種が内海で繁殖することを確認したのは初めてと思われるため、報告する。また、同島でオオミズナギドリの標識調査も実施しているため、合わせて報告する。

繁殖の確認

オオミズナギドリの繁殖が確認された島は、瀬戸内海の山口県上関町にある、周囲約 2.0km、標高 84.5m の無人島の宇和島（うわしま：33°44'N, 132°1'E）である。2008 年 6 月 4 日、海上にオオミズナギドリの約 100 羽

の群れが浮かんでいるのを確認し、付近の島での繁殖の可能性が考えられたため、群れが確認された周辺で、タブ *Machilus thunbergii* など常緑の広葉樹の木が大きく多数ありよく茂っており、これまでにオオミズナギドリの生息や繁殖の調査を行った経験のある著者が見てオオミズナギドリが多数繁殖する他の島の環境と比較的類似した、繁殖の可能性が考えられた島を選出し、繁殖調査を行った。調査方法は、(A) 夜間繁殖の可能性のある島の周囲で、オオミズナギドリがコロニーに出入りする時に発する大きな声の確認による調査と、(B) 日中、島に上陸し、巣穴がある可能性のある環境の場所で巣穴を確認する調査の 2 種類である。その結果、宇和島の斜面の森から出入りするオオミズナギドリの成鳥の声と姿を複数確認したため、2009 年 9 月 7 日、島に上陸し、数十個の巣穴と 1 羽の雛を確認した(図 1)。巣穴は直径約 15cm の円形で、タブなどが生える急斜面を中心に、



図 1. 山口県上関町宇和島にある巣穴で確認されたオオミズナギドリの雛
(2009 年 9 月 7 日. 撮影：飯田知彦)

Fig.1. The downy young of Streaked Shearwater in the nest-hole on 7 September 2009, Uwashima Island, Kaminoseki Town, Yamaguchi Prefecture (Photo by T. Iida).

合計 75 巣を確認した (2011 年 8 月現在)。夜間にはオオミズナギドリの成鳥が巣穴によく出入りし、飛び立つため樹木の上に登る姿も確認できた。須川 (2006) の文献と著者の他の島での調査経験から抱卵期にあたる 7 月には、巣穴の中で抱卵する親鳥と卵を確認し、同じく須川 (2006) の文献と著者の他の島での調査経験から育雛期にあたる 8 ~ 11 月には、複数の巣穴の中で雛を確認した。11 月上旬には、巣穴の中で、成鳥とほぼ同じ羽に成長した、巣立ち直前と思われる雛を確認した。

宇和島の北約 5km にある周囲約 2.2km、標高 68.0m の無人島の天田島 (あまたじま : 33°46'N, 132°3'E) でも、タブなど常緑の広葉樹の木が大きく多数ありよく茂っており、これまでに著者が見たオオミズナギドリが多数繁殖する他の島の環境と比較的類似した環境だったため、オオミズナギ



図 2. 山口県上関町天田島で見つかった巣穴 (2009 年 7 月 4 日確認、撮影 : 2009 年 9 月 7 日、飯田知彦)。オオミズナギドリのもと考えられた。

Fig.2. The nest-hole observed on 4 July 2009, Amatajima Island, Kaminoseki Town, Yamaguchi Prefecture (Photo by T. Iida). It was estimated to be dug by the Streaked Shearwater.

ドリが繁殖する可能性があると思われたため、調査を行ったところ、2009年7月4日、宇和島で確認した巣穴と類似する古い巣穴を4巣確認した(図2)。巣穴は直径約15cmで、オオミズナギドリのものであった。近くでは掘りかけの巣穴と思われる穴も複数確認した。

宇和島で巣穴の密度が高いと思われる場所を選んで、巻き尺により可能な限り正確に10m×10mの調査範囲を2か所とって行った巣穴の密度の調査で、宇和島では、その範囲内に、それぞれ6巣と4巣であった。高い密度で繁殖することが知られている京都府冠島では、同じく10m×10mの調査範囲内に、平均約60巣である(須川 2006)ので、それと比べると、宇和島では密度が高いと思われる場所を選んでの比較でも、宇和島の場合、巣穴の密度は冠島の10分の1程度と非常に低かった。

山口県では、オオミズナギドリは、日本海側の萩市鯖島で繁殖することが確認されていた(小林ら 2001)。今回確認した宇和島での繁殖は、山口県での新たな繁殖地の確認であるだけでなく、瀬戸内海という内海での、本種の初の繁殖地の確認となる。

今回の調査で、瀬戸内海西部にあり、植生などからオオミズナギドリが繁殖している可能性があると考えられる島はほぼすべて調査したが、現在オオミズナギドリが繁殖している島は、宇和島しか確認されなかった。

瀬戸内海では、これまで長年何度も鳥類の調査が行われてきたにもかかわらず、オオミズナギドリは、その姿でさえ過去1度も確認されていない。そのためこれまで、瀬戸内海のような内海にはオオミズナギドリは生息しないものと思われてきた。さらにこれまでに確認されているオオミズナギドリの繁殖島はすべて外洋にあったため、オオミズナギドリは外洋の島でしか繁殖しないものと思われてきた。

これらのことから、宇和島は現在、瀬戸内海で唯一オオミズナギドリが繁殖する島であると思われ、内海の繁殖島として、きわめて貴重なものと思われる。

標識調査

オオミズナギドリの繁殖を確認するために雛の確認を行ったことから、初めて雛を確認した 2009 年から、雛の標識調査を開始した。

ただ、なんらかの原因で島に侵入し、繁殖して個体数が増加したと思われるドブネズミ *attus norvegicus* の影響か、繁殖状況は非常に悪く、巣の数に対して確認される雛の数は非常に少なかった。

当初はなぜそれほど雛の数が少ないのかよくわからなかったが、以後毎年、各巣での繁殖確認も兼ねて、毎年標識調査を行っている。

コロニー発見の翌年の 2010 年からは、コロニー内で確認されたすべての巣の内部を調査して、確認された雛にはすべて標識リングを付けている。

オオミズナギドリの雛への標識調査は、京都府の冠島など他の繁殖島でも盛んに行われているが、ひとつの島のコロニーのほぼすべての巣の内部を調査して、雛に標識が付けられている例は他にないと思われ、ひとつの海鳥のコロニーに対してという意味では、世界的にも他にないのではないかと思われる。

雛以外でも、もちろん親鳥にも標識を付けており、きわめて小規模なコロニーであるため、コロニーの発見から昨年までの 3 年間で、繁殖する成鳥の 1/2 以上の個体に標識を付けることができた。

きわめて小規模なコロニーであることから、現在すべての巣立ち雛に標識を付けることができているが、コロニーを構成するすべての成鳥の個体

に標識を付けることも可能なため、今後は、そのような他のコロニーでは行えない調査を中心に、オオミズナギドリの研究を行う予定である。

今回の確認に至るまで及び本稿をまとめるにあたり、須川 恒氏と岡奈理子氏からは有意義な情報をいただいた。両氏には深く感謝の意を表す。

引用文献

- 小林繁樹・原田量介・加藤 昇 2001. 山口県萩市鯖島におけるオオミズナギドリの山口県初繁殖記録. 山口県の自然 61 : 17-20.
- 真木広造・大西敏一 2000. 日本の野鳥 590. 平凡社. 東京.
- 日本鳥学会 2000. 日本産鳥類目録改訂第 6 版. 日本鳥学会, 京都.
- 岡 奈理子 2004. オオミズナギドリの繁殖島と繁殖個体数規模, および海域, 表層水温との関係. 山階鳥類学雑誌 35 : 164-188.
- 須川 恒 2006. 冠島とオオミズナギドリ - 生活史と標識調査 - アルラ 33 : 24-29.

The first confirmation of the streaked shearwater *Calonectris leucomelas* breed in the Seto inland sea.

In the Seto Inland Sea, We confirmed the streaked shearwater breed for the first time. The confirmation of the streaked shearwater breed in the inland sea is thought of for the first time. The place that confirmed breeding is an uninhabited

island named Uwashima in Kaminoseki Town, Yamaguchi Prefecture. The number of nests of the streaked shearwater which We confirmed was the colony which was extremely small in less than 100 nests. We investigated whether a streaked shearwater breed in other islands of the Seto Inland Sea, but was not able to confirm the breeding in other islands. The colony of the streaked shearwater of Uwashima is only one in the Seto Inland Sea with a great many islands, and it seems with a very valuable colony with a few populations.